

# 雑草抑制および刈草存置措置を考慮した堤防植栽管理技術資料の改訂

コンサルタント国内事業本部 社会システム事業部 環境部 石原 宏二 他

## ○キーワード

刈草存置、雑草抑制、シート被覆、発芽促進、コスト縮減

## ○概要

北陸地方整備局管内における堤防植栽の植生手法および管理作業の効率化に関し、センチピードグラスを用いた植栽による雑草抑制効果や生分解性シートの使用によるシート撤去手間の削減効果を確認した。また、刈草を存置しても堤防への影響が特になことを確認した。これらの結果等を基に、既存の堤防植栽管理手法に関する技術資料の改訂を行った。

## ○技術ポイント

冷涼な気候で施工期間が限られることや、維持管理費用の低減が求められる中で、堤防植生管理の効率化に対応する技術の試験や試行の結果から、下記に示す通り、適応する技術や施工方法を評価し、関連する技術資料の更新を実施した。

- ① 河川法面における植生手法：河川の法面緑化工は、2～3月頃が施工時期となるため、フィルムシートによる保温により発芽促進を実施している。発芽後はフィルムシートの撤去が必要となるため、生分解性シートを用いることで発芽期間の保温機能確保と、撤去作業の削減の効果が得られないか検証し、その効果とコスト縮減の可能性を確認した。また、草丈の低い草種であるセンチピードグラスによる雑草抑制効果を確認した。
- ② 刈草放置による河川堤防への影響度：堤防除草時の刈草を存置した場合の影響を調査し、存置しても直ちに堤防の強度低下等の重大な問題の要因となるものではないことを確認した。
- ③ 河川堤防植生維持管理手法：以上の結果等を基に、既往の種子吹付工に関する「野芝・洋芝種子吹付施工及び維持管理の手引き（案）」、および堤防植栽施工・管理に関する「堤防法面等植生管理マニュアル（案）」の改訂を行った。

## ○図・表・写真等

### 【河川堤防法面における植生手法の一例】

- 分解性植生シートによる野芝植生工

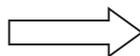
冷涼な時期にノシバ種子を散布しても発芽しづらいため、ビニールシートで覆い保温することで発芽を促進していたが、シートの撤去・処分費が発生している。

撤去・処分費の縮減のため、放置しても生分解してなくなる生分解性のシートやワラ素材のシートによる法面緑化の試行と効果のモニタリング、効果の評価を行い、「野芝・洋芝種子吹付け施工及び維持管理の手引き（案）」（平成13年3月）を見直した。



施工直後

(生分解性シート(右)、ワラ素材シート(中央))



施工後6カ月

(生分解性シート(中央))